

# 常任委員会審査状況

12月定例会に上程された議案を各委員会に付託して審査を行いました。12月11日と18日に予算決算委員会、13日に文教環境・産業建設委員会と各分科会、14日に総務・生活福祉委員会と各分科会をそれぞれ開催しました。各委員会及び分科会の審査状況は以下のとおりです。

## 総務委員会(総務分科会)

議案第80号、議案第82号および議案第83号の3議案を審査した。議案

第80号 平成24年度鈴鹿市一般会計補正予算(第3号)では、庁舎等維持修繕費について、庁舎の落雷対策を行う費用であるが、どのような落雷対策を行うのか。他の自治体でも落雷事故は起きているのか。避雷針ではなく直接建物に雷が落ちることも考えられるが、建物への落雷対策も行うのか。現庁舎を設計した時には落雷対策の話はなかったのか。平成17年に内部雷保護の基準が示されたが、平成18年に現庁舎が完成した時には、雷保護について話題にならなかったのか。9月8日に起こった落雷被害は、一度地中に逃げた電気が戻ってきたことにより発生したのかを尋ねる質疑があった。財政調整基金繰入金については、4億5,700万円を減額補正するようだが、当初予算であげていた20億円の財政調整基金繰入金は何に使うつもりだったのかを尋ねる質疑があった。ホームページ運営費については、市ホームページのトップページをリニューアルする費用であり、現在契約している業者に依頼することについては理解するが、金額の妥当性はどのように判断したのか。金額の妥当性のチェックは誰が行うのか。専門業者に金額が妥当かを確認してもらうべきではないかを尋ねる質疑があった。議案第82号 鈴鹿市実費弁償条例の一部改正については、地方自治法の一部を改正する法律により、議会の本会議においても公聴会の開催や参考人の招致ができるようになり、公聴会等に参加した場合等の実費弁償について規定している地方自治法第207条の規定が改められ、これに伴い鈴鹿市実費弁償条例を改正する内容であった。委員からは特に異議がなく、全会一致で原案可決すべきと決定した。議案第83号 鈴鹿市税条例の一部改正については、地方税法及び国有資産等所在市町村交付金法の一部を改正する法律が公布され、これに伴い個人市民税と固定資産税に関する規定について、鈴鹿市税条例を改正しようとする内容であった。委員からは特に異議がなく、全会一致で原案可決すべきと決定した。

## 文教環境委員会(文教環境分科会)

議案第80号ほか5件の議案を審査した。議案第80号は、ふ

れあいセンターの維持修繕費に関する敷地内の電柱に設置された区分負荷開閉器の交換について、電気自動車用急速充電器設置事業について駐車場には充電器を使わなくても誰でも入れるのか、他の車が充電中に待機場所はあるのか、チャドモチャージ登録は必須なのか、利用料はしばらく無料とのことだが予算はいくらとっているのかについて、就学援助費から先に給食費を徴収できないのか等を尋ねる質疑があった。討論では、就学援助費から先に給食費を徴収出来るよう検討してほしいとの意見や、地球温暖化防止対策費における電気自動車用急速充電器設置事業費関係については、慎重に対応してほしいとの意見があり、採決の結果、全会一致で原案可決した。議案第84号は、鈴鹿市廃棄物処理施設条例の一部改正により現状と変わる点について、責任の所在が市になることにより、基準の内容を市が変更できるのかについて質疑があった。討論はなく、採決の結果、全会一致で原案可決した。議案第87号、議案第88号、議案第89号、議案第90号については平田野中学校の工事契約関連となり、一括議題とした。特定建設工事共同企業体での工事では、業者別に工事割り当て箇所が決まっているのか、民事裁判係争中の業者も含まれているが安心できるのか、主たる業者の経営事項審査評価について、共同企業体の業者は最初から業者同士で組んでくるのかについて、また、神戸中学校の検証も受け、校舎の暑さ対策はどうしたのか、教室に空調機用の電源までは付けるが空調機はなぜ取り付けられないのか、建設委員会からこのことに関して要望はなかったのか、エレベーターの設置場所について、校舎内の無線LAN配線について、ベランダの設置について等質疑があった。討論では、反対討論として、改築工事・企業・契約金額等に異論はないが、空調機用の電源まで用意しながらなぜ設置をしないのかとの意見、賛成討論としては、裁判係争中の業者があることに不安はあるが、市の審査的にも問題はないということなので、しっかり工事が進めばいいとの意見、神戸中学校同様の武道場の建築方法は評価できるので、全国的にもアピールしてほしいとの意見、市内業者を中心にまとめた仕事を発注することができたことは評価したい、空調機を付ける教室を優先的に選ぶのではなく、どこの教室にいてもいいように対応策を作り、モデル校にしてほかの学校もこれに近付けるよう努力するのが、教育委員会のあるべき姿ではないかとの意見があった。採決の結果、4議案とも賛成多数で、原案可決した。